

### 3 授業実践Ⅱ 壁新聞の制作

菌床しいたけの栽培での学びを共有し、視野を広げ、生活につながる手段として「壁新聞」の制作を行った。壁新聞づくりでは、4人一班で、模造紙にこれまでの授業を振り返り、菌床しいたけの栽培のまとめを行った。壁新聞を作ったあとの生徒の感想には、「壁新聞を作ったことで菌床しいたけの栽培の過程を改めて理解をすることができた」など、学びを文字としてまとめることで、栽培の基礎・基本の定着を図ることができた。また、菌床しいたけとホダ木しいたけの栽培方法の違いを分かりやすくまとめたり、授業で栽培農家の方から聞いた話をまとめたりする班もあった。

- 栽培農家の人は高く売れるように、いろいろな工夫をして育てていることを改めて感じた。
- ホダ木栽培よりも、短期間で収穫できることを分かりやすくまとめることができた。

生徒の中には、壁新聞を制作していて疑問に思ったことなどを、菌床しいたけ栽培農家へ行きインタビューをして記事にした生徒もいた。

- Q：菌床しいたけとホダ木しいたけのどちらがおいしいですか。
- A：好みの問題ですが、菌床しいたけの方が柔らかいのでおいしいです。
- Q：おいしいしいたけの条件は何ですか。
- A：ひだがイシヅキに付いているものかな。

壁新聞を制作し、自分とは違った方法をお互いが評価し合うことで、他の生徒の工夫を知る機会となり、仲間と学びを深め合うことができた。

さらに、しいたけ栽培農家の生徒の「家で親がしている工夫や苦労をあまり気にしてこなかったが、これからはこの勉強を生かして、家の手伝いもしていきたいと思います」という感想から、この「菌床しいたけの栽培」が生活に生きる実践であったことを確認することができた。



【壁新聞の構想】



【壁新聞の制作】



【栽培農家へ出かけ、話を聞く】



【壁新聞の展示】

この「菌床しいたけの栽培」が生活に生きる実践であったことを確認することができた。